

ニューカッスル大学語学研修参加報告書

文学部比較文化学科 2 年 (参加時)

私は、2025 年 8 月 23 日から 9 月 22 日までの 4 週間、オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるニューカッスル大学で行われた語学研修に参加しました。4 週間の滞在期間中に経験した事をいくつかの項目に分けて報告します。

1. 学校生活

プログラムが始まる前に日本で受けたテストによりクラスが編成され、初日のオリエンテーションで発表がありました。私のクラスは日本人・タイ人・サウジアラビア人で構成されており、日本人が大部分を占めていました。授業は午前 10 時に始まり、午後 4 時に終了するスケジュールで、午前・午後それぞれ 2 時間ずつ行われました。最初の 2 週間は昼休みが 2 時間あり、後半の 2 週間は 1 時間半に短縮され、その分授業は午後 3 時半に終わります。授業内容はリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの 4 項目が 1 日に組み込まれており、ペアワークやグループワークが豊富だったため、特にスピーキング練習が多かったです。基礎の復習が中心でしたが、これまで何となく理解していたことを論理的に説明してもらうことで、より深く学ぶことが出来ました。適度にゲームを交えた学習もあったため、楽しみながら授業を受けていました。また、クラスメイトと過ごす中で、それぞれが英語を学ぶ目的が異なることにも気付きました。タイ人やサウジアラビア人の学生は親のビジネスのために英語を学んでいたりと、看護師をしていてより高い職に就くために学んでいたりと、一人一人異なる目的をもって学んでいるその姿勢から学ぶことも多かったです。昼食は毎日ホストマザーが用意して下さったお弁当を食べました。私は毎日サンドイッチとフルーツとお菓子を用意して下さり、どれも美味しかったです。昼休みは食事をするだけでなく、図書館の中にある自由なスペースでアクセサリーを作ったりパズルで遊んだり、有意義な時間を過ごせたと思います。

放課後はホームステイ先がシティから離れていたため、大きなショッピングモールには行けませんでした。近くのスーパーや小さな商業施設に立ち寄ることが多かったです。毎週月曜日と木曜日には「Japanese-English Club」という放課後の活動に参加し、そこではビリヤードや UNO をしながら現地の学生と交流し楽しく過ごしました。

2. ホームステイ

ホストファミリーはとても温かく迎えて下さり、安心して生活することが出来ました。ホームステイ先は大学までバスで 22 分の場所にあり、ホストファミリーはオーストラリア人で家族構成はホストマザー・ホストファザー・ホストシスターの 3 人でした。ホストマザーとホストファザーは共働きだったため、朝はそれぞれが自分で朝食をとり、各自の予定に合わせて出掛けていました。一方で、夕食は家族全員が揃って食べる習慣があり、夜 7 時前後に食卓を囲むことが多かったです。ホストマザーは 1 ヶ月間、毎日異なる夕食を用意して下さい、オーストラリアの食文化を体験することが出来ました。どの料理もとても美味しかったです。毎週木曜日には近くに住む娘夫婦が訪れて、一緒に賑やかな夕食を楽しむこともありました。

また、ホームステイ先では犬を飼っており、大学から帰宅してから夕食までの間ホストファザーと一緒に犬の散歩を何度かしました。2 時間ほど歩くこともあり、その途中で野生のカンガルーを見かけることもありました。散歩の時間では、ホストファザーとゆっくり会話をしながら、お互いのことを話すことが出来たので、とても貴重な時間だったと思います。ホームステイ先では夕食が済んだらその後は個人の時間を尊重する雰囲気があり、それぞれが好きなように過ごしていました。そのため、私も自分の時間をしっかり持つことができ、快適にホームステイ生活を送ることが出来ました。

3. 休日

休日は近くのショッピングモールに行ったり、2 度シドニーへ遊びに行ったりしました。シドニーまでは電車で約 2 時間半かかるので距離はありますが、現地の交通系カードの利用により交通費は最大 9 ドルで済み、気軽に出かけることが出来ました。シドニーではオペラハウスやハーバーブリッジを実際に見ることができ、街並みや建物も美しく、オーストラリアに来たことを改めて実感したのを覚えています。2 度目に訪れた際にデモ活動に遭遇することもありましたが、それも含めて現地の社会の一端に触れる貴重な経験となりました。また、ホストファミリーがカンガルーやコアラを見に動物園へ連れて行って下さり、オーストラリアならではの自然や動物に触れられたことも思い出です。

帰国前の最後の休日には、同い年のホストシスターと出かけ、人気のスイーツを食べたりボウリングをしたり、ビーチ沿いを散歩したりして 1 日を過ごしました。限られた休日にも充実させることができたのは、友人やホストファミリーのお陰です。

4. 得た学びと今後への活かし方

今回のプログラムに参加したことで、インターネットや本だけでは知ることの出来ない異

文化を実際に経験することができ、学校生活やホームステイを通して日常のあらゆる場面から多くを学びました。その中で、自分では固定概念を持たないようにしていたつもりでも、無意識のうちに先入観を抱いてしまっていたことに気づき、改めて異文化を正しく理解することの大切さを実感しました。

また、現地で日本文化の存在感を強く感じたことも印象的でした。商業施設やスーパーマーケットには寿司専門店が数多く見られ、日本の食文化が広く受け入れられていることに驚きました。さらに、街中を走る車の多くが日本製であり、オーストラリアと日本の文化的・経済的な繋がりを身近に感じました。こうした経験を通して、異文化間での繋がりの融合にも目を向けるきっかけとなり、異文化理解への関心が一層深まりました。

私は比較文化学科で学んでいるため、今回得た経験は学びと直結しています。今後は授業での学習においても、実際の体験を踏まえながら理解を深めることができると思います。今回のプログラムで得た学びと異文化理解への関心を、大学での学びや将来の進路にしっかりと繋げていきます。

